

祝 大阪支部結成50周年

岨 和正（兵庫支部・淡路市立大町小学校）

★温故知新

2015年5月10日に同志会60周年記念集会（兼中間研究集会）がアウイーナ大阪で開催されるのに先んじて、2月21日～22日に滋賀で関西近畿ブロック集会を開催しました。その際に「関西・近畿ブロック集会」史⇒全国の活動史と関西・近畿ブロックや各支部の活動史をちょっと並べて見た表」にもとづいて報告させていただきました。これをもとにして、2005年前後（大阪支部約30年）までのあゆみをトピック風に、兵庫支部のあゆみと関わらせて、概観しながら、大阪支部50周年を共に祝うメッセージとします。温故知新～大阪支部の故きを訪ねて新しきを知る～

★大阪支部結成、続いて兵庫支部

関西・近畿では、1968年10月26日に京都支部が最初に支部結成。2番目に1971年6月28日大阪支部結成、続いて、1974年5月19日に兵庫支部結成。よって、2021年大阪支部は50周年。その3年後の2024年に兵庫支部は50周年を迎えます。身銭を切り、自立した支部活動が半世紀も続いたこととなります。すごいことです。もっと自覚して賞賛し合いたいものです。

★圧巻の大阪支部芸能部

わたしは、1974年の大学4年生時に香川の多度津の全国大会で初参加し、大学5年生で熊本・天草、冬の全国大会の静岡、浜松の館山寺荘に参加しました。その冬の全国大会で、すごいものを観てしまいました。夜の大レクリエーションでの川口先生のキングコング、中村先生のヨーデル、唐木先生の枯れ葉、村上先生の新聞少年・・・そして、出原先生の山本リンダ、土佐さんの愛の水中花、前田先生の河内節（河内音頭）圧巻でした。（黒井先生の小話や榊原先生の森進一はもう少し後だったかもしれない）学習もさることながら大会に参加するもう一つの楽しみとなりました。

★新しい研究スタイル「ポドテキスト研究」

わたしが、教師になったのが1976年4月ですから、教師4年目の頃の1979年にこの「ポドテキスト研究」がスタートしています。わたしが、初めてこの取り組みの報告を受けたのは、関西・近畿ブロック集会だったと記憶しています。淡口先生のバスケットボールの授業分析で「一番シュートがよく入る地点を子どもたちが探していく」授業のようすを榊原先生が報告されたのを覚えています。このポドテキストとは、ロシアの演劇の脚本家スタニフラスキーが演劇運動の中で提唱したものです。これを坂元忠芳は教育実践記録批評の観点から実践記録の集団的分析と批評の重要性として取り上げたものでした。これを、大阪支部は実践を集団批評するだけでなく、指導案づくり（ポドテキスト）【授業での発問、子どもの反応予想、教師の思い等】⇒授業を観て記録する⇒授業分析⇒まとめ⇒指導案の作り直しのプロセスを集団でやろうとした取り組みでした。これは、参加すると何か頂けるという例会から、一人一人が主体的に関わって指導力量、組織力量をアップさせる例会への取り組みだったのではないかと思います。そして、その研究の蓄積が全国大会開催へとつながっていったのではないかと思います。

★大阪支部に学ぼうとした兵庫支部

1981年、関西ブロック長として、新堂達夫さんが就任。出原泰明氏はこの年日本福祉大に。1982年4/7大阪支部事務所開設（弁天町）。1983年第1回大阪支部大会開催。そして、1985年大阪御堂筋全国大会が8月8日（木）から11日（日）、3泊4日で大野屋を宿にして開催。同志会創立30周年でもありました。大野屋の屋台でよく飲んで語り合ったことを覚えています。特に大阪支部の取り組みから学んだのは、現地実行委員会学習会を中心として学んでいく「推進講座」の開催で

「みんなで学びつつ大会を創っていく」というスタイルです。その成果を推進講座集「主体者形成への道」Ⅰ・Ⅱを発行し、全国に広めたのです。その後、すぐ兵庫支部総会で榎原義夫さん（大阪支部長兼実行委員長）に「大阪大会から学ぶもの、大阪からの発信」というタイトルで講演をお願いしました。そして、1987年に神戸有馬の銀水荘と中ノ坊を宿舎に、有馬小学校講堂を会場にして全国大会を開催しました。大阪支部に学んで、推進講座集「スポーツ・教育・平和」Ⅰ・Ⅱを発行し、その年、大阪支部は結成15年史「キックオフ」を発行しています。ちなみに、この時の大会参加費の徴収は現金であり、その大金の管理に夏の蝉の声を聞きながら、あたふたしていたことも今となってはいい思い出です。

★大阪支部の研究のしつこさ、粘り強さを示す「競争研究」

1994年9月からあの大阪の「競争研究」がスタートします。詳細は大阪支部ニュースで大阪支部の軌跡「先人たちの挑戦」「競争研究」は何を残したのかとして特集を組み 前田雅章さんが執筆をされているので、そちらに譲るとして、わたしは、その研究をサイドで視ていて感じたことを失礼ながら述べてみます。

まずはじめに、この研究は1990年頃からの教科内容研究の提唱を正面から支部で受け止めたことによるものだと思っています。その成果の一つ目は、研究局長（安武）、部長（前田）次長（楠橋）として若手の新体制でしかも2～3年（実際は5年かかっているが）のスパンでテーマをもって挑もうとしているところがすごいです。決して当時は見通しがあったとは言えないかもしれないけれども・・・。

二つ目は、競争研究の流れの区分で言えば、確か（1）文献研究期であったと思われるが、支部例会の参加者が激減したと聞いたことがありました。しかし、しつこく諦めず粘り強く続けていたことです。その粘りが（2）実践模索期から（3）実践構想と実践化につなげていくエネルギーになったのではないかと思います。今のはやりで言う「主体的な深い学び」がああ伊藤知可子さんの丸太投げやハンマー投げを生み出したのだと思いました。

三つ目は、その研究実践から約20年が経ちますが、その「競争研究」のまとめ直しをしようとする意欲に感心しました。それができるのは、やはり、大阪支部らしくその都度まとめを文書として残しているからです。それが、なかなかできていない兵庫支部はもっと学ばなければならないところです。

★大阪の「吉野屋旅館」に集結してスタートした「教育課程プロジェクト研究」

1998年12月から、教育課程自主編成プロジェクトが全国の有志のメンバーでスタートしました。2000年8月の中標津全国大会での私たちの教育課程試案【中間報告】までの間、実にプロジェクトの12回の研究会が開催されています。主に、大阪のあの旅館に集結していく要となるにあたって、サイドから大阪支部の果たした役割は大きかったと思っています。その成果として、2003年「教育課程試案第1巻」刊行(理論編みどり色) 2004年「教育課程試案第2巻」刊行(実践編ブルー)、輝く体育シリーズの刊行と続いていくわけです。続いて、関西・近畿ブロックでポスト2005プレ奈良大会165名 ⇒ 2005年 50周年記念全国研究大会（奈良・猿沢 奈良女子大）が開催され、大阪支部の力量が発揮されていくわけです。

★大阪支部への期待

「同志会の活動の特徴は研究と組織の両輪で動いていることだ。」は座右の銘として、今も言われていますが、その模範として示しているのが大阪支部だと思います。特に、支部結成当初から、機関会議を重視して継続的に行っているところは支部の伝統であり素晴らしいところだと思います。また、ベテランから若い層へのバトンタッチも うまくいっていると思います。とはいえ、今コロナ禍のまっただ中であって、オンライン会議や研究会、授業が行われています。今後、このメリット、デメリットが話題となってきます。アフターコロナの時代に「子どもたちを主人公にした体育・スポーツの学び」の可能性を共に探していきたいものです。大阪支部が全国のその先頭に立って、リーダー性を発揮されることを期待して50周年を祝う言葉とします。